

帯広市産業振興会議 議事録要旨

平成22年5月28日（金）9：30～12：00

市庁舎10階 第3会議室

（曾我会長）

先日、関西おびひろ会に行ったときにも稲が短いとの話、寒くて農作物心配。イベントも中止が相次ぎ、口蹄疫も心配なところ。なかなか大変な状況にあるが、今日は米沢市長より「フードバレーとかち」についての話も聞ける。よろしく願います。

（米沢市長）

帯広には面白いものがある。中小企業振興基本条例を作り、産業振興ビジョンを策定していることを十勝に戻る前にインターネットなどで見ていて、故郷にこのようなものがある事に驚きと誇りを感じた。

これからの自分の人生を面白く、楽しくやっていきたいと考え、帯広を選択した。今日、このメンバーに会えることが楽しみだった。

「フードバレーとかち」というのは今から始める特別な取り組みではない。昭和の時代からアグリポリスなどが昔からあった。やることはさほど変わらない。クラスターなど北海道が使っている言葉を敢えて使わなかった。道と同じでは道の施策を超えられない。名前は大事であり、オランダの「フードバレー」は響きがいい。旗印としての言葉。農業や食品加工だけでなく、健康や環境も関わってくる。まちづくりの方向性を謳う標語。この言葉に収れんしたいと思っている。行ってみたい、住んでみたいと思わせる十勝・帯広のライフスタイルを発信したい。

道や国も産業クラスターや農業、食料政策で今、騒いでいる。この時に旗を上げられたことが重要。これまで積み上げてきたものを活かしていくのは、これまでと同じ。

「フードバレー」のもう一つの狙いとして、まわりから見て何か面白いこと、変なことをやっている、動いていると思わせること。元気な姿を見せる。

また、税金を払ってくれる年代層に来てもらいたい。そのためには働く場が必要だし、医療面、教育面でも充実が必要。産業振興が核。産業なくしてまちづくりは語れない。

長く企画畑に携わっていた。企画書を書くのは楽しい。ビジョンづくりも楽しいが、実行に移すのは大変。何も無いところから作るのも大変だが、そこからがもっと大変。

振興会議の皆さんは条例づくりからはじまり、企画の段階を経て、動き始めるときの難しさを経験されていると思う。市役所も一生懸命やるが、皆さんのお力をお借りしたい。

<ペーパーを配布。なくして欲しい組織の10か条について、紹介。>

これからの仕事はゾクゾクすることをやらないと。元気の出るようなこと、他とは違うことをする。小さな成功には罰。失敗には報酬を。

（曾我会長）

屋台村もフードバレーの一つの形。十勝村もそう。十勝には基礎がある。

(委員)

米沢市長の話は感覚的に良く分かる。「フードバレー」というシンボリックな言葉のもと具体的にどう関わったらよいか。我々はエンジンであるので、ビタミンやオイルを与えて欲しい。

また、民と官の人的関係を築き、相互理解が出来、これを壊すことのないよう適材適所の配置をお願いしたい。フラットなところでお付き合いを。期待している。

(曾我会長)

市長には今日の会議だけでなく、メンバーとして今後も出ていただけたら。

<市長退席>

資料4、4-1、4-2について事務局より説明。

<十勝帯広地域のブランド戦略構築に関する調査業務報告書配布>

(委員)

4回の委員会、2回の視察。大変中身が濃かった。自給率1100%といいながら、十勝帯広の食品出荷額は、比率が低い。「十勝1100」などの商標登録なども検討し、地域での活動をすすめたい。富士宮では商標をNPO法人が市で管理し、それを財源として活動している。旗を掲げることが大事では。

資料5-1 地域経済リサーチ小委員会

(委員)

地域活性化に寄与する実践型のシンクタンクについて、提言をまとめていきたい。

扱う情報は、収集→整理→分析→活用

地元の金融機関との連携をどうするか。先進地視察なども実施し、提言書を取りまとめていきたい。

今後のあり方について、テーマを絞って深掘をしていくような、協議をしていきたい。

<順に発言>

(委員)

年間スケジュールで開催回数は4回でもいいが、資料を事前配布していただかないと、議論ができないので、できれば事前配布をしてほしい。

全体の方向性は認識しているが、具体的にになると意見が分かれるところもある。

また、ビジョン事業ばかりではなく、各企業や個人が行っているものも産業振興会議、もしくは帯広市として応援できないか、何か反映されるような形ができないか。

(委員)

進行している事業をいち早く発信していくことが大切。また、ビジョン事業はいかにわかりやすい形にしていくかが課題。正直、委員でも事業について分かっていない。シンプルな形にしてみせていくことが重要。マスメディアや地元メディアを積極的に活用していくことも大切。

(委員)

市長の話、アグリポリスの話はなるほどと思った。市長の意欲は振興会議の方向性とあっている。

役所の仕事は予算主義なので、着手しただけで「やった」ということになるが、着手した結果、どんな成果があったかチェックが必要。成果に焦点を当てた資料を考えてほしい。

主要テーマを絞り議論していくことに賛成。ただ、何をテーマにするかは今すぐには決められない。

(委員)

進捗状況のチェックとしては、ビジョンならではの事業と区分して、それがどうなっているのか分かりやすく説明してほしい。

フードバレーとは旗印。今後この会議でそれをどう位置づけるのかが課題。

また、商工会議所の青年部でスイーツコンテストなど色々な事業に取り組んでいるふるさと貢献プロジェクトや観光ロードマップづくりなど青年部なりに作成している。同じような動きやPRがあり、連携してやればもっと良いものができるのでは。

また、ロードマップの「新しい目玉の取り組み」についても、産業振興ビジョンとどのように関連してくるか、ビジョンを説明していただきたい。

(委員)

市長の企画は楽しい。着手の後、実際、どうしていくかが肝要。1100%はただ本州に売っているだけ。食べ物をつくり屋台、観光に生かすこと。

頭でっかちはだめ。もっと大きな視点で食べ物を見つめ直す。これがフードバレーでは。

(委員)

工程表については、「着手予定」や「未着手」はいつ着手するのか。もう少し分かりやすく書いてもらった方がいい。とかち村のテナントはすべて埋まるのか？テナント料が高いと聞いているが。

(事務局)

工程表の見直しをしていきたい。

(事務局)

十勝村のテナントについては、だいぶ埋まってきている。若干遅れていることは事実。出品はしたいが、出店はしないなどのケースもある。

(委員)

当事者意識の指摘として伺った。自ら何ができるか。フードバレーには、畜大の役割も少なからずある。ロードマップはもっと具体的に内容をわかりやすくすべき。

A i r - D O のダブルトラッキングについて、名古屋の実績をみると機材が小さくなくても搭乗率が変わらない。ダブル化は良いというが、ダブルトラッキング実現後、新たな問題が発生してくるのではないか。日本航空(株)が今後、どのような対応をとっていくのか。

A i r - D O 就航後の次の展開を考えていく必要がある。着手しその後どうするか。次の展開、ストーリーが必要。着手だけで終わらない。そういったループが止まらないようにお願いしたい。

(事務局)

A i r - D O は来週月曜日に発表があると思う。成就するものと願いたい。

パイの奪い合いとなり、航空会社は、燃料、着陸料などの経費が負担となる。負担軽減のため、機材小型化の流れである。A i r - D O が就航したことで、J A L が減便となることも想定されるので注視していきたい。

ダブルトラッキングの恩恵は、競争原理から料金が下がること。料金が下がれば利用客も増える。うまく回ることを期待したい。

(委員)

産業振興会議はなぜ年4回で議事録の公開は2ヶ月後なのか。

重点事項として、市場開拓・売り込みの事業はあまりない。そうした視点も必要。市場開拓は民間サイドでビジネスマッチングなど色々取り組みしており、成果も上がってきている。バックアップを積極的にすすめてほしい。

我々が資金提供しているビジネスマッチングの反省会が昨日あったが、来場者は減っているが成約件数は増えている。

「フードバレーとかち」どう使っていけば良いか。会議所でも「マイとかち」など行っており、消費者やバイヤーが混乱しないように名称を絞り込んでいくこと必要。

(委員)

着手を持って終わりではなく。その成果を明確にすべき。

フードバレーを旗印に今後進めていくのであれば、ビジョン事業の中でもそれに関する事業の重点化を図っていくべき。フードバレーとビジョンの事業の方向性は違ってない。

サラリーマンが転職できる先が少ない。数年したら飯が食えるようになるのが理想だが。

(委員)

テーマを絞らないと議論が集約していかない。深掘りは大賛成。重点だけでも10本ある。会議も年4回では足りないのでは。会議の進め方にも関わるが、各事業の目的、到達目標を示していると論議しやすい。民間の先進事例も情報共有して活用すべき。地域の活性化には創業する人を増やすこと重要。ビジョン事業で、着手予定の段階から会議に諮ってほしい。そうしたほうが、より効果的な事業になる。

(委員)

深堀りを進めていくことは大事。着手したら終わりではない。事業を実施することで成果になるので、短いスパンで見える目標を設定すべき。また成果の上がったものをいかに発信するか、広く周知することが必要。また域内で収支を考えるのでは限度があり、いかに外貨を稼ぐかが重要。目標を見えるようにすると良い。

十勝にきた新参加者として感じたことは、車がないと何も出来ない。その割に案内が不親切に感じた。

(委員)

市長の話は刺激的で重要なお話であった。まちづくりの旗印をフードバレーに集約していかうとのこと。創業、起業にとって、都市のアメニティの充実が重要との結論。産業振興会議でまちづくりのあり方を議論してもいいのではないかと。条例が出来たから何か変わったかと問われても、まだ1年だからという言葉で片付けられたが、もうそろそろその言い訳もきかない状況になってきた。成果はなかなかでないという話もあったが、重要なのは動きをどう発信するか。帯広市のHPも全国共通のひな型に合わせているだけで、面白いとは思ってもらえないのではないかと。市のホームページでのトップページで引きつけるような見直しをするなど、発信の仕方を検討してもらいたい。

(委員)

フードバレーとかちに向けて、フードに関係した組織がたくさんあり、JAも入れた連絡会議が必要だと思う。特区によるフードバレーの推進も必要では。

(委員)

同じような目的を持つ団体等の連携が必要。帯広産業クラスター研究会もフードバレーに関する団体へと衣替えしていくという考え方もあるのではないかと。

(事務局)

工程表については、予算とリンクしていないことから分かりにくい。ホームページに出すことも検討しており、見直しをしていきたい。

(事務局)

振興会議のあり方についてビジョンの進捗管理、チェックだけでなく、施策を掘り下げて議論をすることをお願いしたい。フードバレーをどう動かしていくのか、体制も含め検討中。この会議にもかけていきたい。チェックだけがこの会議の機能なのか再度確認させて欲しい。

(委員)

フードバレーにどう関わるか。何か意見は。

(委員)

中小企業振興会議や条例に戻る話だが、市長の方針について議論することに異論はない。まちづくりをフードバレーに集約。それだけでいいのか。中身がはっきりしないものを作る、やらないは判断できないのでは。ステップを踏んでいくこと必要。

ビジョンのダイジェスト版を作ってはどうか。この会議は中小企業の振興が目的。市内のある全国チェーンのスーパーで働く親子が事情によって別々に住むことになった。ところが、非正規雇用なので家賃を払いきれない。結局、そのスーパーをやめて正職員として就職できたのが、市内のパン屋さん。中小企業がしっかりと雇用の受け皿となっている実態がある。そういった人たちにもビジョンを広く知らしめるため、もう少しハンディな資料があるとよい。

(委員)

推進会議は、進捗のチェックが基本。でも、次のアクションに繋げるための結果は必要。今の状態では分からない。まずはそこを。可能であれば数値化して欲しい。

フードバレーは別。どう取り組むかはもう少し時間をかけるべき。

(委員)

当初から想定していたやるべきことをきちんとやる。その上で、協力できることはやりたい。年4回とあるが、増えることもありうる。

(委員)

このビジョンがどう進捗していくか見届けたい。そのチェックの過程で議論をしていくことは当然のこと。産業振興会議は、貴重な情報共有の場。情報共有のために必要な頻度は確保。

創業支援について信用金庫も展開。相談のなかで、飲食店は多いが、食品製造業はそう多くないのが実態。